

彙報

第七十三回研究発表会

令和六年十一月三十日

於 高知大学学術情報基盤図
書館中央館メディアホール

〔研究発表〕

中原中也『山羊の歌』の表現と構成

本学四年生 三瀬 未悠

『とりかへばや物語』異本研究―筑波本の
改変態度―

本学卒業生 細川 華琳

抄物資料に見える敬語動詞ワタル

本学専任講師 古田 龍啓

〔講演〕

戦後文学としての三島由紀夫―その文
学的意義を問い直す

高知県立大学准教授 田中 裕也

卒業論文題目（令和五年度、本学会運営
委員の指導学生による卒業論文）

阿部 美来乃

太宰治「佳日」における反時局的意図

稲垣 万穂

教員不足の解消に向けて―教員の声

から分かる教育現場の実態と課題―

上原 万知

太宰治「貧の意地」「裸川」「遊興戒」
の共通点

宇田 真凛

同性は同性をなぜ推すのか？

糟谷 岳

小川未明の童話作品における時計と
時間描写について

甲 咲耶花

太宰治「待つ」における「あなた」に
関する一考察

木山 遥

『土佐日記』研究―楫取の描かれ方と
その理由について―

楠 玲音

宮沢賢治「ゼロ弾きのゴーシュ」と怒
り

齋藤 峻

遠藤周作「海と毒菓」における勝呂の
救いの可能性

佐々木 翔太郎

蜻蛉日記における兼家の言動に対す
る道綱母の評価

佐々木 有紀

『燃ゆる女の肖像』を読み解く―新し
いクイア映画とまなざしの歴史―

清水 智華

ディズニープリンセス映画における
プリンスの変遷

高橋 大

芥川文学における母親像
高橋 亮多

本場に必要なき子育て支援とは何か？
―自治体研究、インタビュー調査を通
じて―

竹田 誉乃香

芥川龍之介「地獄変」における絵師良
秀と父良秀

田中 鈴夏

江戸川乱歩「人間椅子」における対比
描写がもたらす効果

戸田 美幸

坂口安吾「桜の森の満開の下」におけ
る孤独な男とその語られ方

富嶋 大介

太宰治「お伽草紙」論―性格の悲喜劇
について―

内藤 優花

「ミッドナイトスワン」を読み解く―
親子関係、風沙の母性に着目して―

中内 富結

宮沢賢治の童話における異なる世界
との別れ

中村 瑠璃子

ディズニー作品におけるプリンセス
と母親の関係について

永谷 邦朋

和歌山県方言にみられる勧誘の文末
詞「ら・れ」の用法

鍋島 力

「Pitcher(現)における「新しいミ形」の用法の変化

難波 江珠未

アニメ聖地巡礼による地域創生の可能性―岐阜県高山市『氷菓』を事例として―

新谷 愛美

高知県渭南地域における行為指示表現―連用形命令を中心に―

西川 裕香

近代の欧文訓読における「*no*」構文の訳と日本語への影響

西田 秀岳

太宰治「斜陽」における人間関係―かず子の要望についての考察―

萩原 志帆

「男色の研究」

橋本 知彦

谷崎潤一郎「愛なき人々」における「愛」と「可哀想」

原田 泰一

芥川龍之介「地獄変」における良秀像研究

細川 華琳

『とりかへばや物語』異本研究

松田 海斗

太宰治「女性独白体作品」における語り手像の解釈

松田 陽斗

多角的観点に基づく志賀直哉「范の犯罪」論

三好 遙

志賀直哉「小僧の神様」における語りについて

村越 涼花

動詞「打つ」を前項とする「ウチ動詞」の変遷―中世・近世を中心に―

山上 真梨

高知の中小企業創生プロジェクト―中国の発展を見て学ぶ―

山之口 美智穂

夏目漱石作品における「死」と正岡子規

高知大学国語国文学会会則

(平成二十八年十一月二十六日 改定)

一、本会は高知大学国語国文学会と称する。

二、本会は、次の会員をもって構成する。

(1) 文学部国語国文学科卒業生(昭和二十四年度〜昭和五十一年度入学)

(2) 人文学部国語国文学科卒業生(昭和五十二年度〜平成三年度入学)

(3) 人文学部日本・東洋文化コース卒業生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成四年度

〜平成九年度入学)

(4) 人文学部卒業生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したものの(平成十年度入学以降)

(5) 人文社会科学部卒業生で、日本語学、中国語学・文学を専攻したもの(平成二十八年入学以降)

(6) 大学院人文社会科学研究科の修了生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成十一年度入学以降)

(7) 大学院人文社会科学専攻の修了生で、日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻したもの(平成二十一年度入学以降)

(8) 日本語学、日本文学、中国語学・文学を担当する人文学部・人文社会科学部教員

(9) 教育学部国語科関係教員

(10) 人文学部、人文社会科学部および大学院人文社会科学専攻において日本語学、日本文学、中国語学・文学を専攻する在学生

(11) 本会の趣旨に賛同し、入会を認められたもの

三、本会は、会員相互の連絡と学術研究の進展とを図ることをもって目的とする。

四、本会に左の役員を置き、役員会を構

成する。

(1) 運営委員―日本語学、日本文学、中国語学・文学を担当する人文学部・人文社会科学部教員がこれに当たり、うち一名を代表者とする。代表者をもって会長とする。

格を停止するものとする。

十、会員は別に設ける投稿規程にもとづき、機関雑誌に投稿することができる。十一、会員は別に設ける研究発表規定にもとづき、研究発表会での口頭発表を希望することができる。

十二、本会の会則の変更は、総会の議を経るものとする。

会長の任期は二年とし、連続する再任は一度までとする。

附則

(2) 幹事―卒業生・修了生および在学生(学部生・大学院生)から若干名を当てる。

【投稿規定】

(1) 日本語学、日本文学、中国語学・文学に関する学術研究であること。

(1) 総会、懇親会の開催

(2) 研究発表会、講演会の開催

(3) 機関雑誌の発行

(3) 採用に関する審査は運営委員会において行う。

(4) 会報の発行

(4) 分量は、四百字詰原稿用紙四十枚相当前後とする。

(5) 会員名簿の作成

(5) 投稿締切日は、その年度の九月末日とする。

(6) その他必要な事業

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないという連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

六、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもって当てる。

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないという連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

七、本会の事務は、運営委員である人文学部・人文社会科学部教員の研究室において行う。

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないという連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

八、会員は、次の会費を納入しなければならない。

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないという連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

年額千円。ただし、在学生(学部生・大学院生)は年額五百円とする。

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないという連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

九、五年にわたる会費未納者は、会員資

(6) 本誌収録の論文等の学術研究や教育成果物について、「高知大学学術情報リポジトリ」への登録を申請し、電子的に公開する。ただし、執筆者から、本文を電子的に公開することを許諾しないという連絡があった場合には、その執筆者の論文の本文のみ、電子的に公開する対象から除外する。

後記

【研究発表規定】

(1) 日本語学、日本文学、中国語学・文学に関する研究発表であること。

(2) 内容は未発表のものであること。

(3) 発表者決定に関する審査は運営委員会において行う。

(4) 発表時間は二十分とする。

(5) 申し込みの際には六百字程度の発表要旨を提出すること。

(6) 申し込み締切日は、その年度の八月末日とする。

なお、本会則は、平成二十八年四月一日に遡って適用する。

○本号には、令和三年度本学大学院修士の齋藤香織氏、本学大学院生の楊偉業氏、令和三年度本学卒業生の泉紗英氏、令和五年度本学卒業生の西川裕香氏、細川華琳氏にご投稿いただきました。齋藤氏・西川氏の日本語学の論文、泉氏の日本近代文学の論文、細川氏の日本古典文学の論文、楊氏の中国文学の論文を収めております。力作をお寄せいただいた各氏にお礼申し上げます。

○今年度は、オンライン (Microsoft Teams) での研究発表会参加希望者がいまませんでしたので、対面 (メディアホール) での研究発表会を、十一月第五週の土曜日に開催いたしました。

○右研究発表会では、三瀬末悠氏が、「中原中也『山羊の歌』の表現と構成」という題目で発表を行いました。中也の『山羊の歌』では、色彩語に時間感覚という新たな意味が付与されている。そのことを明らかにしながら、ゆるやかな季節の変化と、外から内への視線の変化とが、深く結び付けられながら表現されていたことを指摘した発表です。また、細川華琳氏は、『とりかへばや物語』異本研究―筑波本の改変態度―という題目で発表を行いました。『とりかへばや』の写本のうち、これまで殆ど研究されてこなかった、「改作本系統」の代表的な伝本である筑波本を読み込み、和歌的表現や涙表現や敬語の加筆等が行われていたことを指摘するとともに、その改変態度の意味を明らかにした発表です。古田龍啓氏は「抄物資料に見える敬語動詞ワタル」という題目で発表を行いました。抄物資料に現れる敬語動詞ワタルが、存在表現の尊敬語であることを明らかにするとともに、この敬語動詞ワタルを、ワタラセタマフ・ワタラセオハシマス・ワタラ

セマシマス等の語と比較しながら、その成立過程を考察した発表です。また、田中裕也氏には、「戦後文学としての三島由紀夫―その文学的意義を問い直す―」という題目でご講演いただきました。三島の『青の時代』では、前半と後半で話が分裂するように見えるが、その意味を、三島によるクレッチマア受容や和辻哲郎『ニイチェ研究』受容を踏まえて明確にする内容、三島の『仮面の告白』でも、前半と後半とで断層があるように見えるが、その意味を、三島によるハヴエロック・エリス『性の心理』受容を手掛かりにして読み解く内容でした。先行研究の不足を補い、三島作品の文学的意義を問い直す大変に刺激的なご講演でした。

○研究発表会の在学生の参加数は四十五名程度でした。参加者にとっては、自らの研究を深める上でよい刺激になったと思います。卒業生は八名の方が参加してくださいました。また、今年度は、昨年度に続き研究発表会後の懇親会を開催しました。研究発表会の日程や学会運営につきまして、ご意見等をお寄せいただけましたら幸いです。

○本学会の会長を長く務められ、また、本学会の中心として運営全般を支えてくださった福島尚氏が、来年度で定年退

職され、それに伴って、今年度で会長を退任されます。来年度の会長は高橋俊氏に代わります。また、来年度の研究発表会では、福島氏に最終講義を行っていただく予定です。会員の皆様におかれましては、是非、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

○本誌では、四十九号より、著者からの許諾を得た論文等を、「高知大学学術情報リポジトリ」に登録し、電子的に公開しております。全てのバックナンバーを公開しておりますので、是非、ご利用下さい。公開を希望しない論文等につきましては、別途ご連絡いただければ、公開の対象外とします。

※会費納入のお願い

会計決算報告資料をご覧いただければ分かりますが、本学会の運営は現在厳しい状況になっております。今年度は、本誌印刷費・郵送費の値上げや懇親会費の支出増の影響で、赤字決算となりました。今後も、この状況が劇的に改善される見通しはありません。本年度は、十月下旬に、「会費納入のお願い」の用紙と振替用紙とを発送させていただきましたので、未納の方は、会費の納入を何卒お願い申し上げます。運営委員一同、皆様に会費を納入していただけるような魅力ある

学会運営を目指してまいります。

二〇二四年一月二四日 印刷
二〇二四年一月二五日 発行

高知大國文 第五十五号

発行者 高知大学国語国文学会
〒780-8520 高知市曙町二丁目五番一号
発行所 高知大学国語国文学会
振替 〇一六一〇一〇一五〇二四
印刷者 冊子製本ブックホン